

老朽原発美浜3号の運転に反対して

10月24・29日 避難対象地域の滋賀県高月で戸別訪問



避難先が甲賀市だと知っている人はほとんどいない

多くの反対の声を押し切って6月に再稼働した美浜3号は、テロ対策施設が未完で10月23日に運転を停止しました。避難計画を案ずる関西連絡会は翌24日から、長浜市の高月地区で、チラシを持って戸別訪問を始めました。関電は来年10月には工事を終え、運転再開しようとしているため、この1年で、滋賀県北部から反対の声が一層強まるようにとの思いからです。

滋賀県は独自のシミュレーションで、原発から30kmを超えて、図のように長浜市の5地区を避難対象地域に指定しています。そこには約24,500人の住民が暮らし、琵琶湖も汚染されます(高島市の27,000人も対象)。

今回は二日間で、滋賀・大阪・京都から延べ13人が参加しました。訪問したのは、旧高月町内の6自治会区(高月、落川、とうがんじ渡岸寺、森本、ひがしあつじ宇根、東阿閉)の1,200軒ほどでした。

皆さんの感想にあるように、ほとんどの住民が、県内避難先が甲賀市(滋賀県南部)であることを知りませんでした。長浜市は昨年12月20日に一度だけ住民説明会を開きましたが、参加者は100名もいませんでした。さらに長浜市は、甲賀市などの避難所に行くのかさえ公表していません。防災の基本である避難所名を公表していないのは、若狭の原発から30km圏内で長浜市だけです。住民の安全確保をどう考えているのでしょうか。

美浜3号の来年10月の運転再開を止めるため、直接住民の皆さんに安全性や避難計画の問題を伝え、長浜市、市議会議員、区長や滋賀県に反対の声が届くよう、戸別訪問を続けます。地道な活動ですが、ぜひ、ご参加ください。滋賀から反対の声が強まれば、その声はさらに福井の住民の皆さんにも届いていくでしょう。[交通費のカンパ歓迎です]

配布しているチラシ http://www.jca.apc.org/mihama/hairo/nagahama_tirasi20211023.pdf

【参加者の感想】

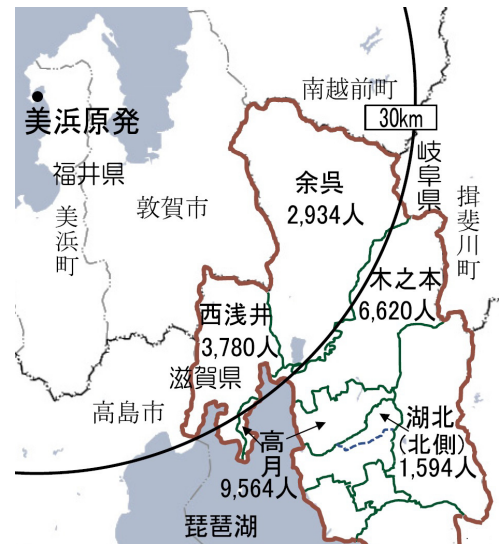
※「原発反対のチラシをもらえて良かった」の声

秋晴れの10月29日、森本地区、渡岸寺地区の戸別チラシ配布に行きました。森本地区の東部と南部には工場や倉庫、配送の車庫などが広がり、住宅地と全く違う風景がありました。渡岸寺地区には森に囲まれた風情ある図書館やお寺があって、改めて見学に行きたいような所でした。

初めは地図上の担当場所がわからず、道を尋ねながら歩き回りました。平日のためか留守が多かったのですが、話のできた何人かに「ご苦労さん」とねぎらわれ、疲れが吹っ飛びました。

避難先を聞くと皆さん「すぐそこの」と近くの小学校や集会所を答え、原発事故時の県内避難先は甲賀市、県外は大阪というのを知っている人はいませんでした。美浜原発が23日に止まったことな

美浜原発事故時の避難対象地域
滋賀県長浜市 約24,500名



ど全く知らない方もいました。話をすると「気にしてなかったけど考えんとあかん。チラシを読ませてもらうわ」と言われ、嬉しかったです。別の人からは「夫は原発必要というけど、私は反対だから、このチラシをもらえて良かった」と言われました。

外で立ち話をしていた二人の男性が「電気は必要やろ。30年原発で働いたけど元気やで」「もう年やし、ええねん」と言うので、チラシの見出し「子や孫の安全と琵琶湖を守るため」を読みあげてチラシを渡しました。拒否はなく、チラシを受け取ってくれました。「避難のことは区長さんがやっているので話してみる」という方もいて、戸別訪問で少しずつ原発反対の機運を広げたいと思いました。

避難の話をしていたら、ぼそっと「原発、止まってくれたら言うことないのに」と言われた方がいました。「本当に」と返しなが、人も土地柄も穏やかなこの地域を放射能で汚したくない、原発を止めたいと改めて感じた一言でした。長浜市の避難対象地域は広いですが、戸別訪問を続ける意義は大きいと思いました。(大阪k)

※ 若狭の原発方から風船が飛んできた。事故が起きたら放射能が来るから怖い

ウォーキング日和の10月24日と29日、「長浜市高月町のチラシ配布と戸別訪問」に出かけました。24日は落川地区、29日は東阿閉（ひがしあつじ）地区等を回りました。

最初に出会えた70代後半の男性に「原発で事故が起きたときの避難場所ご存じですか？」と尋ねると「そこの自治会館や。そのあと高月小学校や」と言われ、「それから先は？」と聞くと「知らん」で終わり。「甲賀市ですよ」に「そんな遠いとか!？」と驚かれました。その後、同じようなやり取りを何人かの方としましたが、甲賀市への避難を知っている方はありませんでした。

「屋内避難です」と答えられた2人の方も、避難先やヨウ素剤配布については「知らない」と。ベトナムから嫁いできた若い女性は「ヒナン？なに？」と逆に聞かれましたが、原発が近くにある事は知っているようだったので「お家の方にチラシを読んでもらって、安全に身を守る方法を話し合ってください」と言って別れました。また「何年か前に若狭の原発の方から風船が飛んできたので、事故が起きたらこの辺まで放射能がくるから怖い」と言われ、出会えた方の大半から「原発には反対」の声を聞きました。

訪問して、住民の安全を守るための防災に長浜市が無関心過ぎると思いました。(兵庫m)

※ はじめて戸別訪問に参加

今回私は、チラシ配布・戸別訪問活動に初めて参加しました。緊張と不安の中、長浜市の高月町高月地区の100軒ほどを回りました。お天気が良く少し汗ばむ陽気の中でしたが、「兵庫県から来ました」というと多くの方が、「遠いところからご苦労様」とねぎらいの言葉をかけてくださいました。大きな家で玄関を探すにも一苦労のお宅ばかりでしたが、多くの方が玄関まで出てきてくれて、チラシの受け取りだけでなく、お話もさせてもらいました。

ほとんどの方は、美浜原発が近いところにあることはご存知でしたが、不安を感じている方は3割程度でした。原発災害の避難計画については知らない方がほとんどでした。チラシをみて、県内避難先が甲賀市だと知ると「遠い」、「行ったこともない」と不安な様子でした。避難先を知っているという方も、台風などの自然災害の際に避難する近くの公民館等とされていました。中には、「署名があればしましょうか」「どうすれば、いいんでしょうか？」と積極的な方、自公政権に対する批判、政治全般に対する批判や自然エネルギーへの転換を話される方もおられました。

原発立地の町とは違って、みなさん、思っていることをストレートに語っていただけました。このような戸別訪問の大切さと、これが大きな力になっていけばと思いました。(兵庫n)